

秋葉就一の2022年9月常任委質疑等と以後の調査

1. 公表発熱外来指定医療機関は八千代市に33

コロナ疑いの方の診察やPCR検査（予約）等が可能な発熱外来指定医療機関についての国の方針変更に伴い、本年9月26日から「65歳以上の方、重症化リスクのある方、つらい症状(息苦しさ、強いだるさ、高熱等)のある方、妊婦の方、子ども」以外の方は、発熱外来の利用を控えて無料検査キット等で検査し自ら登録することが求められることに。

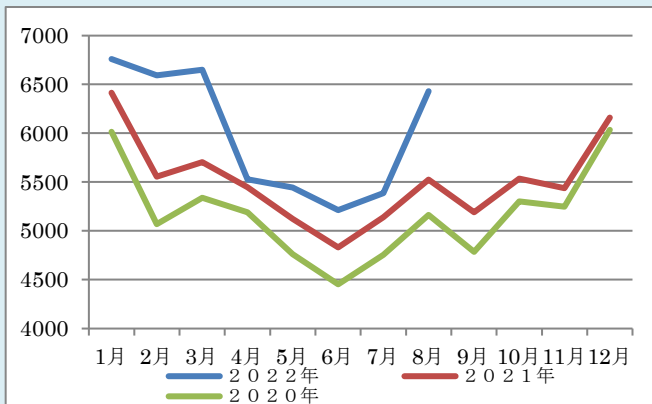
しかしながら、中学生～64歳の方であっても「つらい症状」がある場合は今まで通り利用できるため、7月5日と11月8日の数字を比較してみました↓

公表指定外来医療機関数	7/5現在	11/8現在
千葉県全体	758	815
習志野保健所管内	63	73
うち八千代市内	29	33
うちかかりつけ医以外可	18	20

八千代市内の33機関は、8ヶ月前と比べて約1.65倍ですが、前の4ヶ月での9増に対し、直近の4ヶ月では4増（医療機関の皆様に深く感謝しております）なので、伸びは鈍化した。今年は7月末から8月に救急搬送や発熱外来が逼迫したので、また、人口10万人あたりの発熱外来数が千葉県はワースト級のため、まだまだ増やす必要があります。

朝日新聞9/22朝刊1面によると、9/14現在の人口10万人あたりの発熱外来数の全国平均は32であるのに対し、千葉県はなんと半分以下の15で全都道府県中最下位。人口10万人あたりの発熱外来数が最も多い鳥取県と比べると、なんと4倍近い開きがある。全医療機関に占める発熱外来の数でも千葉県はワーストの23%。全国ワースト4位の埼玉県の21くらいにはせめて追いつかなければならない。

2. 千葉県でも死亡者が2年連続で急増



上のグラフは千葉県人口動態統計速報(死亡数)で、今年の1月～8月の死亡数(青)を昨年(赤)及び一昨年(緑)と比較できる。特に2年前と比べた死亡者の急増ぶりは

衝撃的。中でも、2月・3月・8月の対2年前比はなんと23～28%増。1月～3月の3ヶ月の合計で、今年の死亡者は2年前と比べて3418人も激増しているが、この間のコロナ陽性者死亡は629人であり、約2800人分はコロナ以外の理由による死亡者の増。また、8月も死亡者が激増しており、2年前と比べて1247人も増。今年8月のコロナ陽性者死亡は383人、2020年8月は13人なので、コロナ陽性者死亡の増加分はこの2年で370人。1247人の死亡者増のうちの3割しか説明できない。従って、本県の8月の死亡者急増のうち、コロナ第7波以外の理由による死亡者が約7割の約900人。65歳以上の方が特にコロナワクチン接種に協力を求められていた2月、3月、8月に死亡者が激増しているのは偶然なのか。

3. 県庁舎4棟のLED化も実現へ

リース方式による県庁舎照明のLED化事業もスタート。対象棟は本庁舎、中庁舎、南庁舎、議会棟。対象棟の合計約26,000灯をLED化する。準備期間を経て、今年10月～来年3月に設置作業。(以下、数字は概数)

現在は、蛍光灯の平均交換費用も含めて年間の電気代等はこの4棟で4,937万円。LED化後の電気代は年1,246万円だから、差額の3,691万円がリース料の財源となるが、来年度から10年間、年5,385万円のリース料なので、最初の10年で年1700万円の負担増が発生する。

ただし、11年目からはリース料がなくなるが、設備の所有権が県に移る仕組み。従って、11～15年後は、現在の電気代等との差額の全額3700万円/年が節約されることになるので、5年間で1億8500万円の節約。最初の10年間は1.7億円の経費増だが、15年スパンで見ると1億8500万円との差額の1,500万円が財政効果。

4. 東葉高速鉄道の債務超過や債務残高

10/5の総合企画企業常任委員会で私は、東葉高速鉄道など鉄道3社の本年4月～8月の運輸収入(北総は輸送人員)を前年度及び2019年度との比較で尋ねました↓

運輸収入	東葉高速	北総鉄道	T X(つくば)
前年度比	+15.0%	+11.6%	+19.3%
2019年度比	▲13.6%	▲14.3%	▲17.8%

東葉高速の貸借対照表では、債務超過が49億円から14億円減の35億円に改善はしたが、(償還で58億円減らしただけ)依然として長期債務残高が2357億円と巨額のまま。国の支援による抜本的な対応が求められている。

要望していた夏の格安1日乗車券は実現してよかった。

事務員(運転経験者歓迎)・ボランティア・若者インターン(20～40代)・地方議員志望者募集中